令和6年度

南井上小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○基礎基本を充実させるための「書く・聞く・話す」活動の実践

○主体的に課題を解決するための思考力・判断力・表現力の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
貴志　久美子	（校長）榎本久美（教頭）中村七帆（教務主任）櫻井祐哉（研修）貴志久美子（学年主任）遠藤みゆき　小賀野佳代子　秋山万里子　小川佐知子　藤田ひろみ（特支）寺内小織（TT）齋藤豊子

校長

榎本　久美

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告，さまざまな機会を捉えて，取り組み状況の把握を行う。

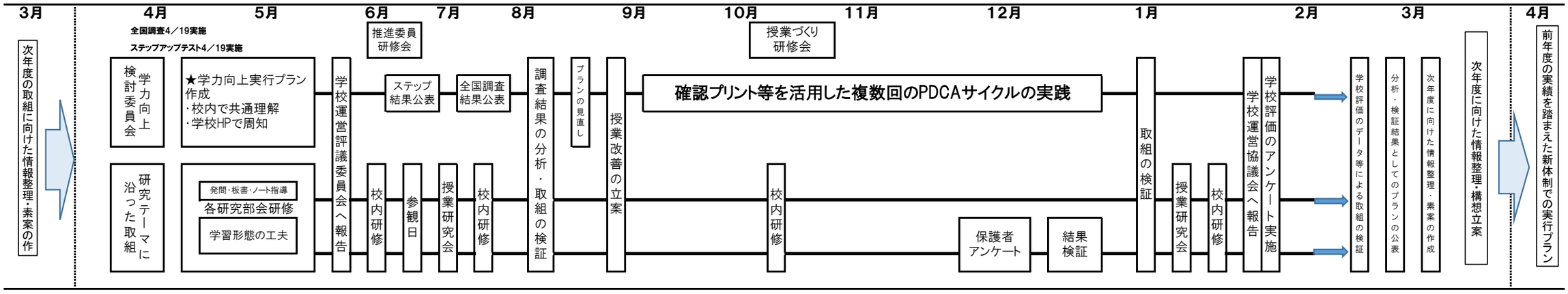
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算など基本的な学習に意欲的に取り組める児童が多い。 ●基本的な学習内容が十分定着しておらず学力の二極化が見られる。語彙数が少なく，問題を読み取る力や学習したことを言葉や文章で表現したり生活に生かしたりできる力の育成が課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につける ことができる。 ・語彙を増やし，正確に文章を読むことができる。 また，より適切な言葉を用いて話したり文章を読んだり書いたりすることができる。	・朝活で，小テストや音読・群読，読書タイムを計画的に実施し，基礎的内容の定着を図る。 ・効果的なノートの取り方，短文の作り方，工夫した日記の書き方等を教師が共有し使える言葉や漢字を増やしていく。 ・視写の活動を積極的に取り入れ，文節や言葉，意味のまとまり等をとらえられるようにする。 ・国語辞典を活用し，言葉の意味や使い方を調べたり，文の中で活用したりできるようにする。	・全校で朝活で行う内容を統一し，計画的に基礎的内容の定着を図る。 ・視写の時間を確保し，学年の発達段階や学習内容を考慮し，着実に力をつけていけるよう計画，実施する。	・朝活で小テストやスキル学習に計画的に取り組んだため，朝のリズムや基礎内容の定着が見られた。 ・視写により，注視する力が向上するとともに，言葉の意味や文章について理解できる児童が増えた。 ・国語辞典の活用により，自分で調べ理解しようとする姿勢が見られるようになった。しかし，語彙力については課題が残り，国語辞典の活用は引き続き，計画的に行っていく必要がある。	・語彙が少なく，既習の漢字を文章中で適切に使うことができていない。子ども新聞を活用した視写や音読を取り入れる等，朝活の時間をさらに工夫する。 ・発達段階や児童の課題に応じた視写教材を選び，言葉や文のまとまりを捉えられるような活動を計画的に行っていく。 ・タブレット等ICTを効果的に活用し，個に応じた基礎学力の定着を図る。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分なりの考えをもち，意欲的に発表したり文章に書いたりできる児童が増えてきている。 ●自分の意見や考えを相手と比べながら考え，よりよい考えにまとめていくことが苦手である。	・相手の話を最後まで聞くことができる。 ・自分の考えを理由や根拠を明確にして伝えたり，相手の考えと比較しながら聞いたり，よりよい考えをまとめたりできる。	・学習後のふり返りを大切にし，自分がその時間に考えたことについて表現する習慣をつける。 ・書く機会を増やしたり，自分の考えを根拠や理由を明らかにしながら伝えたりする学習活動を意図的に設定する。 ・タブレット等のICTやホワイトボード，付箋などを効果的に活用し，児童が互いに意見を出し合い協同的に学ぶ場を設定する。	・思考ツール等を活用し，自分の考えをまとめ表出する活動を継続的に行う。 ・新聞を活用し，内容を要約したり，そこから得られた情報をもとに自分の考えをまとめたりする活動を取り入れる。 ・ペアやグループで根拠を明確にしながら自分の考えを出し合い，話し合う経験をつめるようにする。	・思考ツールを活用することで，自分の伝えたいことを明確にすることができるようになった。 ・授業ごとの振り返りなど，授業の中で書く機会を増やしたことにより，書くことの苦手意識が少なくなった。また，自分の考えや根拠を自分の言葉でまとめることができる児童が増えた。 ・新聞の要約を取り入れることにより，しっかりと文章を読むことができるようになってきた。 ・考えをまとめることが苦手な児童への効果的な支援について検討することが必要である。	・友達の意見を受けて自分の考えを表現して話し合う形を提示し，話合いを深められるようにする。 ・相手の意見に対して，自分はどう思うか考えたり書いたりする活動を計画的に授業の中に取り入れる。 ・ペア・グループで発言する機会を増やすと共に，多様な方法で表現する場を設定し，児童が自信をもって発言できる環境を整える。 ・学級会等で，根拠や理由をはっきりさせて話し合う経験を積めるよう，話合いの場を設定する。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○意欲的に学習し，与えられた課題に，真面目に一生懸命取り組める児童が多い。 ●難しい課題になると，諦めて最後まで取り組むことができなかったり受け身になったりする児童がいる。	・決められた課題だけでなく，初めて出会った課題に対しても，身に付けた力を生かして，自分なりに解決していくことができる。	・めあてをもとに学習を進め，自分の学びをふり返る学習サイクルを確立し，児童が見通しをもって学習に取り組み，次時への課題意識をもてるようにする。 ・家庭学習の手引き等を活用し，家庭と連携しながら家庭学習・読書活動の習慣化を図る。 ・タブレット等ICTの活用を図り，児童が進んで課題に向き合える時間を確保する。また，自力解決時の考え方を分かりやすく伝え合えるようにする。	・タブレット活用方法について，自力解決や考えを伝え合う方法について，ICT支援員の協力を得て，見直しを図る。	・めあてを意識することで，学習の見通しが立ち，主体的に学習に取り組める児童が増えた。 ・少人数で伝え合う活動を通して課題解決への見通しが立ち，最後まで課題に取り組める児童が増えた。 ・家庭との連携を図り，読書活動を進め，読書活動への意欲を高めることができた。 ・タブレットを活用して，自分のペースで学習を進めることで意欲的に学習に取り組むことができた。	・発展性のある課題やオープンエンドの課題，豊かな体験活動を設定し，児童の学習意欲を高める。 ・家庭学習の手引きをもとに家庭と連携し，丁寧に家庭学習に取り組む習慣を身につけられるようにする。 ・タブレット等のICTを活用する機会を増やすと共に，その有効な活用方法を教師間で共有する。

令和6年度　学力向上ロードマップ